

年頭のごあいさつ

土浦市長 中川 清

新

年明けまして、おめでとうございます。

平成25年の初春を市民の皆様と共に迎えられる慶びをかみしめております。

昨年は、あの忌まわしい大震災、巨大津波、そして原発事故からの復興元年としてスタートいたしました。多事多難な一年でありました。

海外に目を向けますと、ギリシャの財政破綻がヨーロッパ諸国に波及し、世界経済への影響も懸念されるところとなりました。

また、韓国大統領の竹島上陸による日韓関係、尖閣国有化に伴う日中関係の悪化、更に北朝鮮のミサイル発射等々、日本を取り巻く東アジアの緊張が高まっております。

一方、国内に目を向けますと、ロンドンオリンピックでの若いアスリート達の活躍、山中伸弥教授のノーベル賞受賞など、明るいニュースもありましたが、円高・



デフレ、貿易収支の大幅赤字、雇用の悪化、ねじれ国会での決められない政治、年末の政党乱立での総選挙、そして、再びの政権交代、まさに内憂外患、21世紀の新しいパラダイムを創らなければならない大事なときにもかかわらず、大変不安定な一年でありました。

そのような内外情勢の中、土浦市にとりましては、次の世代に引き継いでいくための新たな礎を築く極めて重要なスタートの年でありました。

新治村との合併6年目を迎え、地域の一体感が醸成される中、合併特例債事業に位置付けた10事業の内、朝日トンネルの完成、新治地区公民館の建替えや小町の館リニューアルの着工、消防庁舎、市営斎場の移転・建替えの進捗、そして、市役所本庁舎の半世紀ぶりの街中移転^{まちなか}の決定など、議会そして多くの市民のご協力を得て、事業が着々と進み、土浦市全体の都市活力の増進につなげることができました。

ソフト面では、ロンドンオリンピックピックとパラリンピックにおいて、土浦出身の3名の選手の活躍、将来の土浦、そして日本を背負う子ども達の教育、小中一貫教育について2年間の研究成果の発表があり、市内すべての一貫教育への夢が広がりました。

人口減少、グローバル化時代へと、変革の波は、様々な場面ですます大々となります。

今年は、こうした変化にも柔軟に対応しながら、私のまちづくりの基本姿勢であります「行財政改革」と「市民の皆様との協働のまちづくり」の推進の一層の取り組みにより、持続可能な「水・みどり・人がきらめく安心のまち 活力のまち 土浦」の実現に向けた新たな飛躍の年にしたいと思います。

本年が、市民の皆様にとって、素晴らしい一年でありますことを祈念し、新年の挨拶といたします。

